

**別冊資料**

平成 23 年度 補助事業プレゼンテーション関連資料

プレゼンテーション 1

NPO 法人 こころの応援団

事務局 高桑春雄

補助事業名  
～被災者支援拠点づくり活動補助事業～

プレゼンテーション 2

公益財団法人 がん研究会

がん研究所 副所長 中村卓郎

補助事業名  
～難病に関する研究機器の整備補助事業～

## プレゼンテーション1

補助事業名

～被災者支援拠点づくり活動補助事業～

NPO 法人 こころの応援団

事務局 高桑春雄

## 平成23年度補助事業 自己評価書

|    |          |
|----|----------|
| 番号 | 23-4-029 |
| 項番 | 1/1      |

|        |              |       |  |
|--------|--------------|-------|--|
| 補助事業者名 | (N)こころの応援団   |       |  |
| 補助事業名  | 被災者支援拠点づくり活動 | 事業項目名 |  |

### 1. 社会的課題と補助事業の関係整理

|                 |      |  |
|-----------------|------|--|
| 社会的課題<br>(最終目的) | 状況   | 原子力発電所の事故により、群馬県北部地域に避難してきた方々約680名を対象に本事業を計画しました。しかし夏休みが終わる時期になると、福島原発の半径20km圏内に住まわれていた高齢者や、障害者、生活弱者といった方々が多く残り、その方々約250名を対象に心のケアを目的とするサロン事業を展開しました。 |
| 補助事業で解決・改善を目指す  | 目指す姿 | 大きなストレスや不安を募らせる避難者の方々に、当会が開催するサロンに避難先から送迎車にてお招きし、不満や要望などを遠慮無く話せる環境を整え、気分転換や少しでも不安を取り除ける場所づくりを目指しました。また災害弱者といわれる高齢者や障害者の孤立を防ぐ活動を目指しました。               |



|      |              |  |
|------|--------------|--|
| 補助事業 | 目的<br>(中間目的) | 災害弱者と言われる、高齢者や障害者を孤立させず、引きこもりを防止することを第一目的とする。避難者の方々の悩みを打ち明けられる場所、または居場所を提供することを目的とする。  |
|      | 受益者          | 福島県より群馬県北部(沼田市を中心に半径約50kmの町村)に避難されている方々683名を対象に計画した。昨年秋以降、群馬県内に残った約200名を中心に支援した。   |
|      | 実施内容         | 群馬県内の避難者の心のケアを目的としたサロンの開催と送迎サービス活動   |
|      | 結果・成果        | 避難者のニーズに対しては充分に対応できたと考えています。特に避難者どうしではなかなか打ち明けられない悩みや不安を聴く場所やチャンスを提供できたと考えており、支援対象者、ニーズの想定は適切であり、当該対象者のニーズに沿った適切な事業を実施することができたと考えています。 |

### 2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 事業全体の総括的感想                         | 9月5日よりスタートした本事業は、沼田市内で約1ヶ月間サロンを開催し、約300名の参加があり、大変好評を得ていましたが、10月に入ると群馬県内の避難施設を徐々に閉鎖する動きが始まり、新たに準備された、第2次避難施設に避難者が移動したり、南相馬市の仮設住宅に多くの方々が帰られたりと当法人の対応も変化せざるを得なくなり、10月初旬事業の計画変更を行い、県内の2次避難施設への対応と、南相馬市の仮設住宅への対応の活動をスタートさせました。<br>特に南相馬市の仮設住宅では、今まで皆で寄り添って避難生活を行っていた方々が個々に入居する形になり、孤立化が目立つようになってきたため、仮設住宅の集会場でサロン開催を継続し避難者の方々とお付き合いを継続してきた結果、高齢者など震災弱者と言われる方々には、今回の活動がその方々の小さな支えとなっていると実感できるようになり、この活動を実施して大変良かったと感じています。 |
| 今回の事業で、優れていると評価できる点                | 本活動は派手な事業では有りませんが、避難者の話をじっくり聴き、避難者の不安を少しでも和らげる事に重点を置いており、定期的に連絡を取り合いながら活動を続け避難者との太い信頼関係が築けたことが評価でき、避難者の方々が本音でお付き合いしてくれています。<br>避難者の方々からの声で、「他の行事にはなかなか行かないけど、こころの応援団のサロンは必ず参加するよ」という声を聞いたり、南相馬市の社会福祉協議会のスタッフが当会のサロンに駆け付け、「お宅達のサロンは普段出て来ない方も参加しているから、状況を把握するのに適してる。」などと言われるようになっていきます。  |
| 今回の事業の課題、改善すべきと思われる点               | 今回の特殊のケースの対応では当会のスタッフも、多くの知識や情報が必要とされ、原子力発電所の状況の知識、補償問題など、情報や知識を身に付け避難者に接しないと信頼してくれないということがありました。<br>そこで定期的にスタッフは今までとは異なる勉強会を行い、避難者の話を聴き、時にはアドバイスできるような知識を身に付ける必要がありました。<br>このような事から、避難者の方の相談電話(東京電力の補償や行政に対する不満のようなデリケートで複雑な相談)は当法人代表や副代表、事務局長に集中してしまうため、多くのスタッフのスキルを上げてデリケートな相談にも対応できる人材を今後も増やしていく必要があります。   |
| 事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点 | 現在、各仮設住宅では頻繁に「心のケアを目的としたサロン」が開催されていますが、そこに参加する方々はいつも限られた方々のようです。<br>サロンを開催する団体や行政は「今回は何人参加だった」というような数字的な実績を重んじ、また心のケアで定期的に巡回する医師や保健師は避難者からすると「調査されているようだ」との声が多く聞かれます。<br>本当の心のケアを行うには、その方々と長期的にお付き合いし、信頼関係を築いた後に初めて本当の話を聴けるようになり、そこから心のケア活動の一步を踏み出せることであると実感し、これからが当会の本当の活動のスタートと考えます。   |

サロン事業

NPO法人 **こころの応援団**



支えあいましょう プロジェクト



# 被災者支援 拠点づくり活動



沼田市のサロン 初めての開催でなんだかギョチナイ  
2011年9月





片品村の避難先から沼田市のサロンに向かうと同時に、  
病院や買い物に出かける方々（送迎バス内）

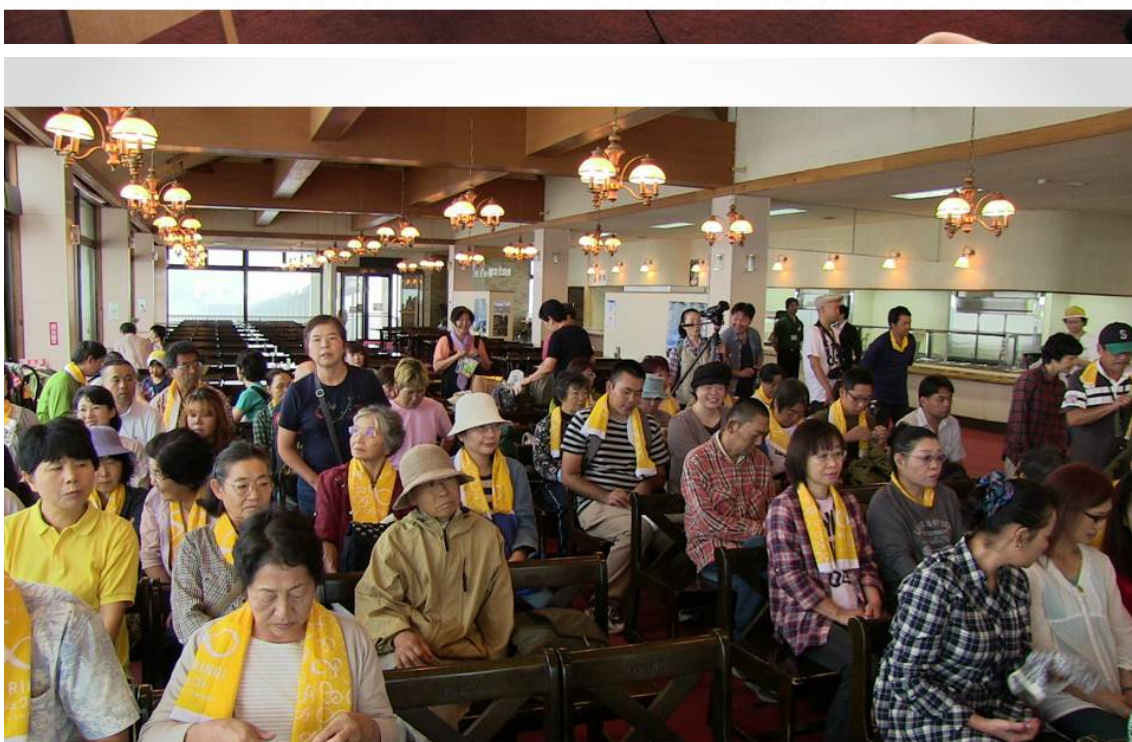


沼田市のサロンの後 被災者の悩み聴く当会スタッフ2名 2011年10月





みなかみ町の谷川岳ロッジでコンサートを兼ねたサロン10月



コンサートに聞き入る参加者達





尾瀬の入口まで紅葉見学



紅葉をバックに記念写真、県内2か所から85名の参加



「南相馬がどんな状況か見てみたい」との希望を受け10名の方を連れて南相馬へ・・・何も無い状況を目の当たりに！！ 2011年11月



いつまでも呆然と、言葉も無く・・・



いつまでも手を合わせていました。  
「そろそろ出発するよ！」と声を掛けられず・・・



完成間近の仮設住宅 群馬で待つ方のために  
写真をたくさん撮って持ち帰りました。



仮設住宅の写真を見入る方々  
南相馬のどんな情報でも皆貴重な情報！！

## お知らせ

平成23年10月18日

避難所の退去式を開催いたしますので、ご準備等よろしくお願いいたします。

日時：平成23年10月19日（水）  
時間：午前8時45分から  
場所：玄関前  
その他：すぐに出発できるよう手荷物等は事前にバスに積み込んでおいてください。  
(バス到着：8時15分予定)

南相馬市事務局

## お知らせ

平成23年10月17日

下記のとおり、夕食会を開催いたしますので、ご参加をお願いいたします。

日時：平成23年10月18日（火）  
時間：午後6時から  
場所：多目的和室 紅葉

コニファーいわびつ  
南相馬市事務局

8か月間暮らした避難所閉鎖 10月下旬閉鎖に



避難所の退所式、これから南相馬の仮設に移動します。  
避難所であるホテルスタッフや群馬に留まる方との涙の別れがありました。



仮設に入った翌日訪ねてみると、さまざまな書類に皆集まり頭を痛めます。  
不明な点は当会スタッフが役場に出向き説明を聞き、わかりやすく伝えます。



完成したばかりの仮設の集会場で初サロン  
テーブルも無く、段ボールにクロスを乗せテーブル替わり



何も無かった集会場も1か月後は沢山の物資で狭くなってしまふ。



人数の少ない仮設では個人宅で ミニサロンを開催



群馬に残った方々対象に 料理教室を兼ねたサロンも開催



群馬に残った方々向けの送迎サービス。主に病院へ向かうことが多い！



群馬に残った方の中には、雪山を体験したいとの希望を受け  
スノーシューを履き 尾瀬山麓で雪山散歩を開催  
「原発事故が無ければこんな体験できなかった！」との声に何とも返事のしようがない





今年3月南相馬から群馬へ里帰り??  
長期間避難していたホテルに今回は  
お客様として訪問。  
群馬に残ってる方とも久しぶりの再会  
深夜遅くまで、語り合っていました。  
この様子はNHKでも放送されました。



今年5月に入り、原発から半径20km圏内に位置する小高地区への立ち入りが昼間だけ許可されるようになった。  
除染してから住めるようにすると言われて  
いるがこんな状況である。  
3. 11から時間が止まってる地区である。

テレビ報道では「高齢者は早く帰りがっている」と言われているが、「早く次の定住先を決めて!」が殆どの方の本音です。

## 今後の課題

今年5月現在、内閣府の調べでは原子力発電所の事故が直接の原因で自殺された方が16名います。また、福島県浜通りでは120名もの方がなんらかの原因で自殺されている事実があり、その約半数が原発事故によるものと言われています。

当会が対応した方々は今までで約400名いますが、その中で自殺を考えたかたや「死のうかと思った」と口にした方は9名ほどいます。その確率は非常に高いと言えます。

大きなストレスや不安を募らせる避難者に対し、当会スタッフが継続的に寄り添い、少しでも不安を取り除き、避難者の心のケアを行うため、群馬県内の2次避難先の借上げ住宅や南相馬市の応急仮設住宅を、今までの活動で信頼関係を築き上げた当会スタッフが定期的に訪れ、いわゆる災害弱者といわれる高齢者や障害者の孤立を防ぎ、今まで以上の悲劇を引き起こさないことを目的とし活動を続けてまいります。

## プレゼンテーション2

補助事業名

～難病に関する研究機器の整備補助事業～

公益財団法人 がん研究会

がん研究所 副所長 中村卓郎

## 平成23年度補助事業 自己評価書

|    |       |
|----|-------|
| 番号 | 23-82 |
| 項番 | 1/1   |

|        |                      |       |  |
|--------|----------------------|-------|--|
| 補助事業者名 | (公財)がん研究会            |       |  |
| 補助事業名  | 平成23年度 難病に関する研究機器の整備 | 事業項目名 |  |

### 1. 社会的課題と補助事業の関係整理

|                 |      |  |
|-----------------|------|--|
| 社会的課題<br>(最終目的) | 状況   | 難病に関連して発生したがん患者の体質に合ったがん治療が求められている。特にがん治療薬の研究開発における研究成果の実用化が期待されている。 |
| 補助事業で解決・改善を目指す  | 目指す姿 | がん治療薬開発の効率化と、体質に合ったがん治療薬の選択を可能にする。                                   |



|      |              |  |
|------|--------------|--|
| 補助事業 | 目的<br>(中間目的) | がん細胞とその特性に関する研究を通して、その研究成果をがん治療薬の開発に繋げる。   |
|      | 受益者          | 難病に罹っている患者さんで、関連して発生するがんの患者さん及び発がんリスクのある方々を対象とする。  |
|      | 実施内容         | がんの治療に関する研究を促進させるために、(1)がん細胞の代謝異常に関する研究、(2)がんの性質の変化を探るための遺伝子発現解析、(3)がん細胞の動態や薬物に対する反応性の解析の3項目を実施して正確で大量な情報を得ることを目的として、次の機器を整備する。<br>①細胞外フラックスアナライザー<br>②パーソナルマイクロアレイシステム<br>③顕微鏡オートフォーカスコントローラー |
|      | 結果・成果        | 研究機器の導入が予定より3か月遅れたが、事業に必要である研究機器が導入されたことにより、がん細胞の代謝異常、遺伝子発現(蛋白質の生成)及び薬物反応性に関する解析結果が研究成果に繋がることが期待できる。   |

### 2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

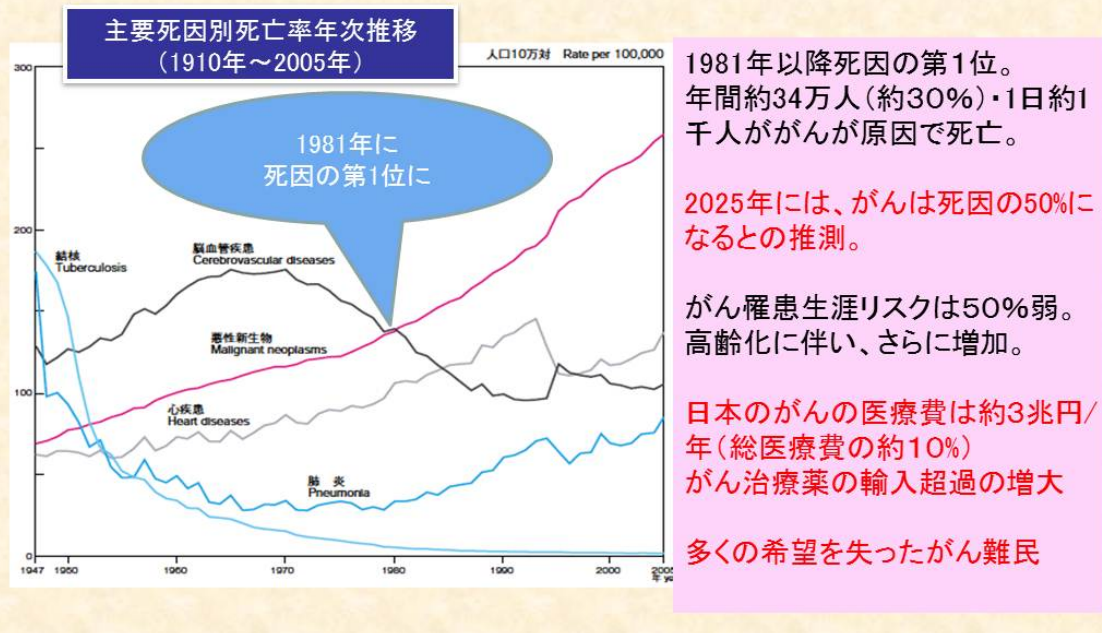
|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 事業全体の総括的感想                         | この事業により必要とされる研究機器が導入されたことは、患者さんの体質に合った治療薬の選択可能性に関する研究を推進させることを可能にした。新しい治療薬開発に関する研究成果も期待できる。 |
| 今回の事業で、優れていると評価できる点                | 事業を推進する為に必要となる研究機器が導入されたので、がん治療薬剤開発の効率化と体質に合ったがん治療薬の選択を可能にする研究に着手することができた。                  |
| 今回の事業の課題、改善すべきと思われる点               | 早期に研究に着手する見地から、機器の導入に際してより一層の迅速化と交渉の円滑化が望まれた。   |
| 事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点 | がん細胞の治療薬に対する反応の多様性がわかり、治療抵抗性のがんについての知見が深まった。  |

平成24年7月20日

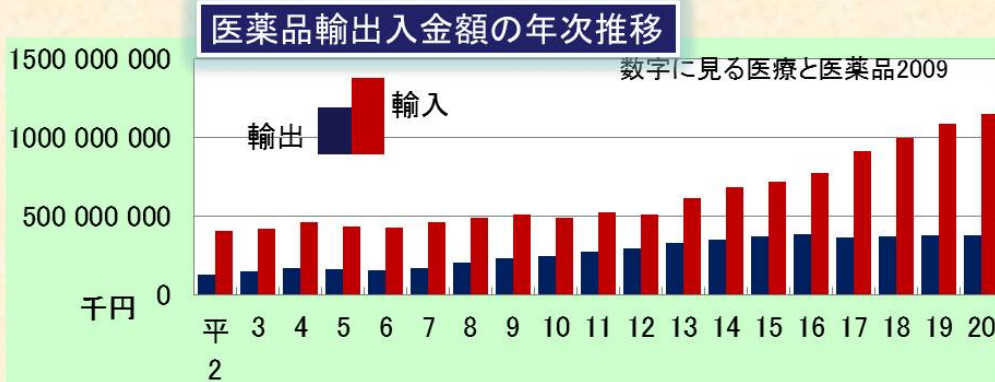
## 財団法人JKA補助金による補助事業 成果発表

公益財団法人 がん研究会

がんの制圧は、21世紀の日本にとって喫緊の課題である  
-- がん研究の推進は社会の要請 --



がん研究の推進により、日本発のがん治療薬・医療機器の開発を !!!



|                 |           |
|-----------------|-----------|
| グリベック(慢性骨髄性白血病) | 月に約40万円   |
| アバスチン(大腸がん)     | 月に約20万円   |
| アリムタ(悪性胸膜中皮種)   | 月に約50万円   |
| ハーセプチン(乳がん)     | 月に約20万円   |
| リツキシサン(悪性リンパ腫)  | 月に約17万円   |
| ゼパリン(悪性リンパ腫)    | 一回約300万円  |
| イレッサ(肺がん)       | 月に約20万円   |
| スーテント(腎がん)      | 月に約100万円  |
| ネクサバール(腎がん)     | 月に約65万円   |
| アービタックス(大腸がん)   | 月に55-70万円 |

|          |          |
|----------|----------|
| ベルケイド    | 月に約100万円 |
| ネクサバール   | 月に約65万円  |
| スーテント    | 月に約77万円  |
| タシグナ     | 月に約32万円  |
| タイケルブ    | 月に約24万円  |
| タルセバ     | 月に約32万円  |
| アービタックス  | 月に約66万円  |
| マイロターゲット | 月に約48万円  |

急増する医薬品の輸入超過

**癌研究所 (1934年 開所)**

(1)開設以来、一貫して、癌研病院と一体となって、がん研究を推進している。  
 --- 体系的がん研究 ---

(2)現在のがん医療構築につながる世界的成果を上げ、世界有数のがん研究機関として認められている。  
 --- 世界的な研究成果の創出 ---

(3)国内で指導的立場に立つ医学生物学研究者やがん臨床研究者を育成、供給してきた。  
 --- 国内トップの人材育成実績 ---

- 国内最大の先進的がん治療機関

- 手術(年間7000例)・放射線治療・化学療法のうちいずれにおいても、国内最多の患者数



**新公益財団法人がん研究会に移行(2011年4月1日)**

**現在のがん研究所における「がん研究」**

(1) がんを対象として、体系的、かつ継続的に基礎研究を推進している。  
 (基盤的ヒト疾患研究の推進。)

(2) 高い研究レベルを維持し、多くの成果を出し続けている。  
 (毎年100報を超す英文科学論文を発表。積極的な知的所有権の確保。)

インターフェロン遺伝子のクローニング  
 ヒト白血病ウイルスHTLV-1の単離  
 抗がん剤耐性遺伝子の同定  
 がん抑制遺伝子APCの単離・同定  
 遺伝子KOによるがんモデル動物の開発  
 TGFβシグナルの分子機構解明

2011年実績:  
 英文誌(review付き) 133報

## 「がん研究拠点」の必要性

### (1) がん克服の必要性 (疾患科学としてのがん研究の推進)

- 日本人の 1/2 (男性)から 1/3 (女性)ががんに罹患し、毎年30万人ががんで死亡している。

### (2) 基礎的がん研究の必要性 (生命科学としてのがん研究の推進)

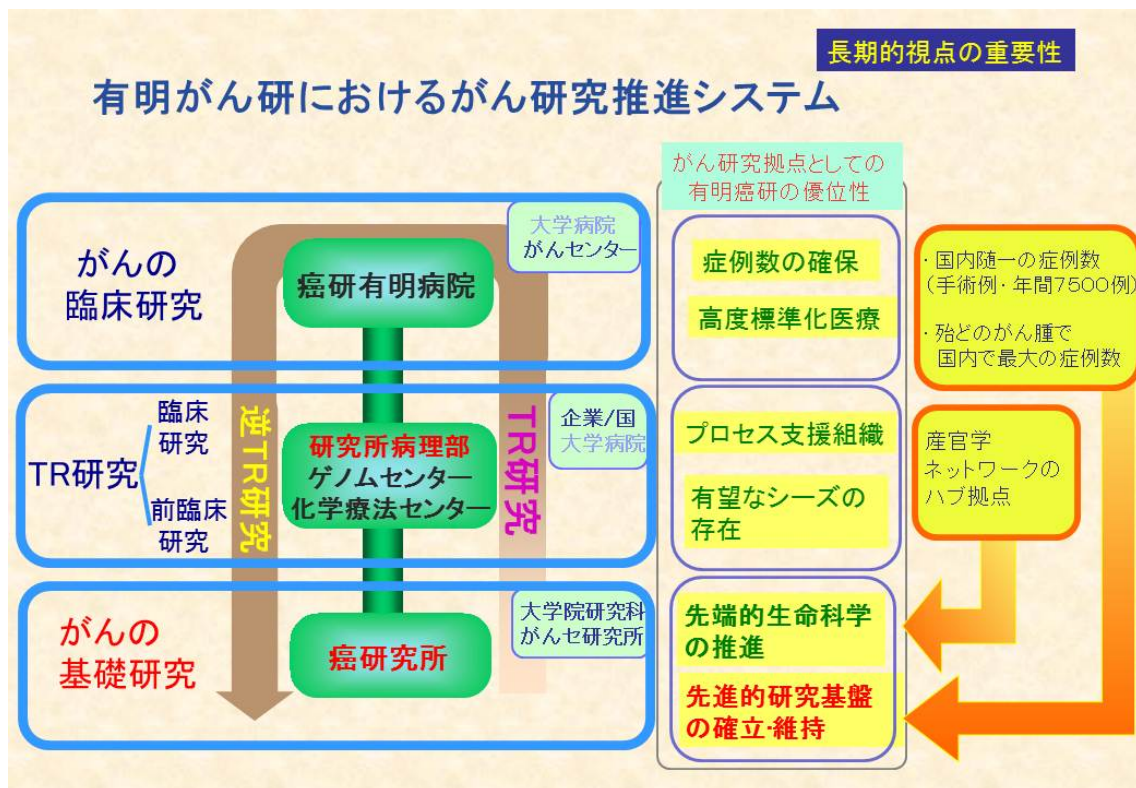
- 次世代のがん診断・治療法の開発には、がんの発生と進展のメカニズムを、深いレベルで理解し、新たな標的を同定することが必須である。
- 細胞・個体レベルでのヒトゲノム機能の解明や、個体レベルでの細胞機能の理解には、がんの基礎研究による知見が必須である。

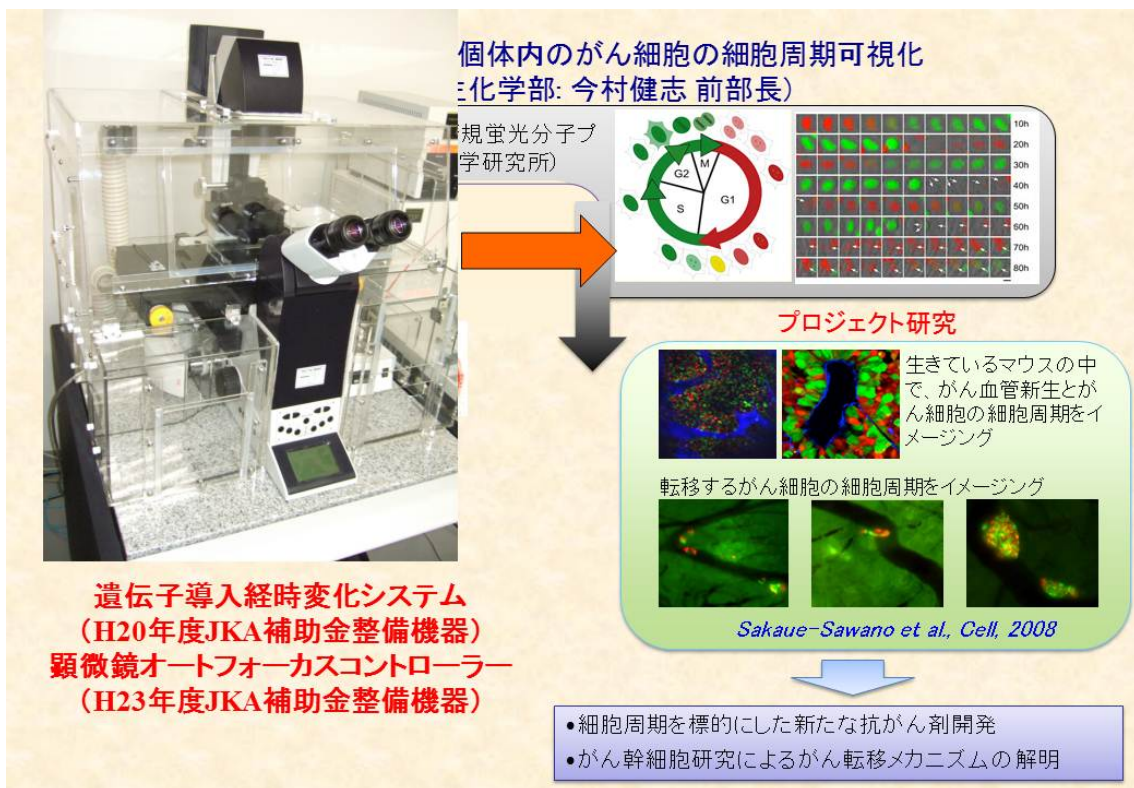
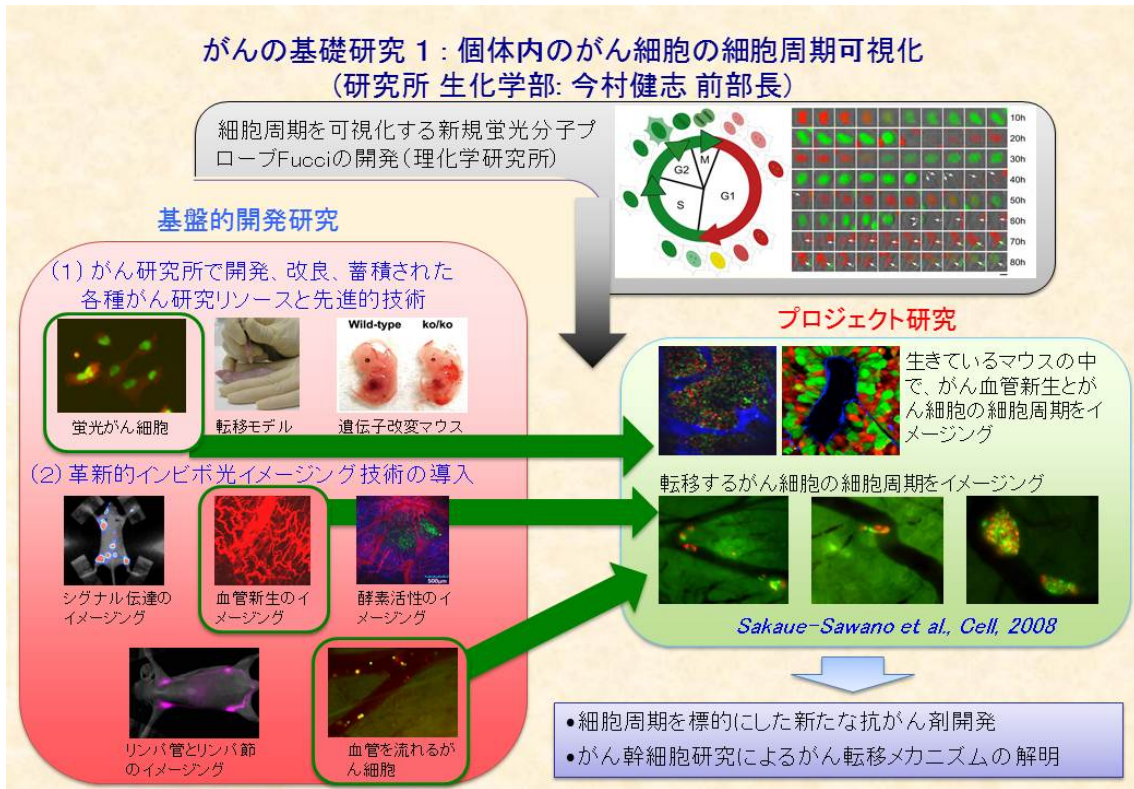
### (3) 研究拠点の必要性 (体系的ながん研究の推進)

- がん研究推進には基礎研究者と臨床研究者が、一体となった、研究推進体制が重要である。
- 特に臨床橋渡し研究(TR)と逆橋渡し研究(R-TR)の推進には、拠点形成が不可欠である。
- 基礎的がん研究の推進にも、臨床研究と高度な標準化医療によりもたらされる、豊富な患者情報と多数のヒトがん由来試料が蓄積された研究基盤が必須である。

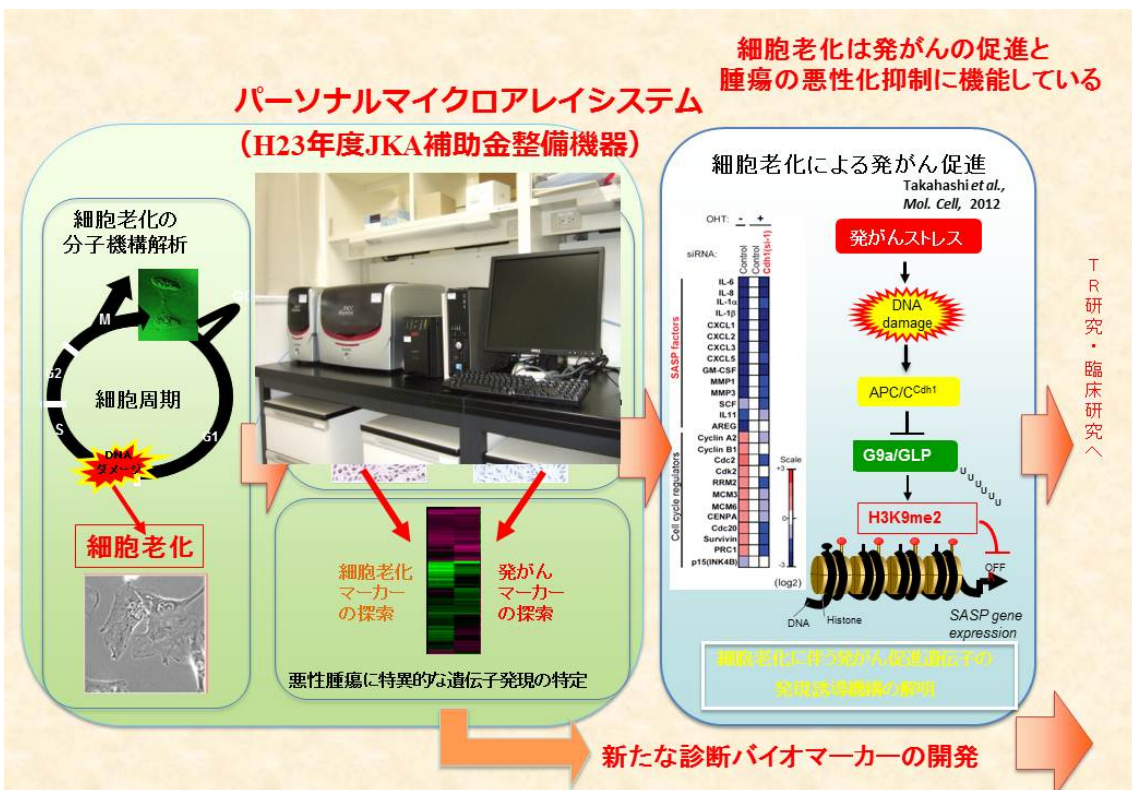
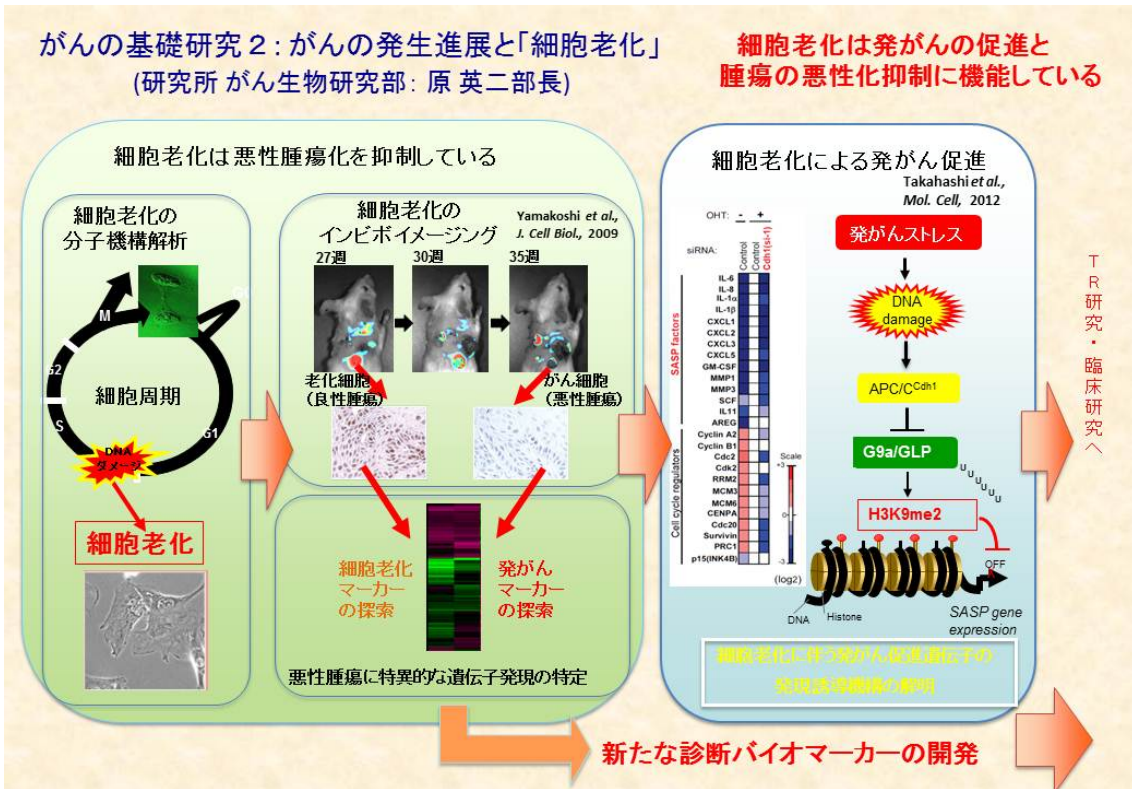
### (補) 諸外国の状況

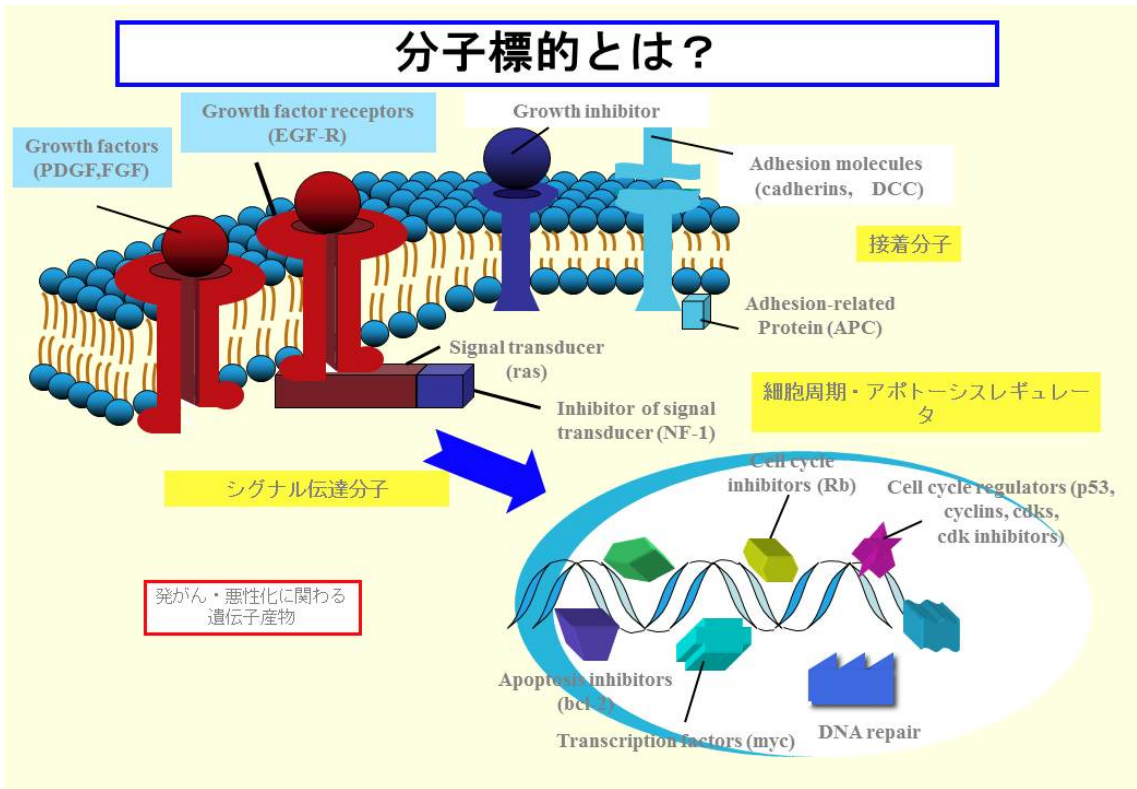
MDアンダーソンがんセンター(米ヒューストン)、スローンケタリングがんセンター(米NY)  
 国立腫瘍センター(独ハイデルベルク)、CNRS(仏ビルデュープ)











### がんの橋渡し研究: がん研における創薬研究の具体例

創薬プロセス

(1) 分子標的の同定からの抗がん剤開発  
(基礎研究部: 藤田直也部長)

Aggrus阻害剤 (抗体、低分子化合物)

基本特許 第4721633号 (出願人: がん研)  
抗体特許 特願2011-062686 (出願人: がん研)  
化合物特許 特願2011-212891 (出願人: ファルマIPとがん研の共願)

(2) 阻害化合物の探索からの抗がん剤開発  
(分子薬理部: 矢守隆夫部長)

PI3K阻害剤 (ZSTK474、全薬工業と共同開発)

2011年1月  
米国でPhase-I 開始

腫瘍転移による ZSTK474 の抗がん効果 (ヒト大腸がんWiDr)

高い治療効果  
低毒性

